

※※印：2012年 4月改訂(第10版、社名変更等に伴う改訂)
 ※印：2011年10月改訂

日本標準商品分類番号
872339

貯 法：吸湿性のため、開封後は密封して乾燥した場所に保管する。
 使用期限：外装に表示の使用期限内に使用すること。
 取扱い上の注意：「取扱い上の注意」の項参照

承認番号	22100AMX01659000
薬価収載	2009年11月
販売開始	1994年 7月

健胃消化剤

リーダィ[®]MM配合散

RIIDAI-MM

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

- ※ (1) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
 (2) 透析療法を受けている患者 [長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症、貧血等があらわれるおそれがある]
 (3) ナトリウム摂取制限を必要とする患者(高ナトリウム血症、浮腫、妊娠高血圧症候群等) [ナトリウムの貯留増加により症状が悪化するおそれがある]
 (4) 高カルシウム血症の患者 [血中カルシウム濃度が上昇し、症状が悪化するおそれがある]
 (5) 甲状腺機能低下症又は副甲状腺機能亢進症の患者 [血中カルシウム濃度の上昇により病態に悪影響を及ぼすおそれがある]

【組成・性状】

組 成	1g中：ジアスターゼ ……………100mg 合成ケイ酸アルミニウム ……400mg 炭酸水素ナトリウム ……200mg 沈降炭酸カルシウム ……200mg ケイヒ末 ……………60mg ウイキョウ末 ……………20mg ショウキョウ末 ……………15mg センブリ末 ……………2mg サンショウ末 ……………1mg (添加物) L-メントール
	性 状

【効能・効果】

下記消化器症状の改善
 食欲不振、胃部不快感、胃もたれ、嘔気・嘔吐

【用法・用量】

通常、成人1回1.3g～1.5gを1日3回食後に経口投与する。

【使用上の注意】

- 1 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)**
 (1) 重篤な消化管潰瘍のある患者 [炭酸水素ナトリウムを配合しているため、症状が悪化するおそれがある]
 (2) 腎不全の患者 [排泄障害により副作用があらわれることがある]
 ※(3) 腎障害のある患者 [長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症、貧血等があらわれるおそれがあるため、定期的に血中アルミニウム、リン、カルシウム、アルカリホスファターゼ等の測定を行うこと]
 (4) 心機能障害のある患者 [症状が悪化するおそれがある]
 (5) 肺機能障害のある患者 [症状が悪化するおそれがある]
 (6) リン酸塩低下のある患者 [アルミニウムにより無機リンの吸収が阻害される]
 (7) 低クロル性アルカローシス等の電解質失調の患者 [症状が悪化するおそれがある]

2 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
活性化ビタミンD	高カルシウム血症があらわれやすくなる。	本剤中のカルシウムの吸収が促進される。
テトラサイクリン系抗生物質 ニューキノロン系抗菌剤 エノキサシン水和物 ノフロキサシン オフロキサシン等	これらの薬剤の効果が減弱することがあるので、同時に服用させないなど注意すること。この作用は薬剤の服用時間をずらすことにより弱まるとの報告がある。	本剤中のアルミニウムとキレートを形成し、これらの薬剤の吸収を阻害する。
大量の牛乳・カルシウム製剤	Milk-alkali syndrome(高カルシウム血症、高窒素血症、アルカローシス等)があらわれるおそれがあるので、観察を十分に行い、症状が発現した場合には投与を中止すること。	本剤の吸着作用又は消化管内・体液のpH上昇による作用と考えられている。
その他の併用薬剤	併用薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがある。この作用は薬剤の服用時間をずらすことにより弱まるとの報告がある。	

3 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻 度 不 明
長期・大量投与	腎結石、尿路結石
※ 長期投与 ^{注1)}	アルミニウム脳症、アルミニウム骨症、貧血
消化器	便秘等
過敏症 ^{注2)}	発疹等

注1) このような症状があらわれるおそれがあるので、慎重に投与すること。

注2) 過敏症状があらわれた場合には投与を中止すること。

4 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているため、用量に注意すること。



【薬効薬理】

1 配合成分の作用¹⁾

●ジアスターゼ：消化酵素剤

ジアスターゼはでんぷんを加水分解する酵素に与えられる総称であるが、作用機構的にアミラーゼという名称が用いられている。

麦芽アミラーゼ中には、 α 、 β の両アミラーゼがあり、両者共にでんぷんに作用する。

麦芽アミラーゼの至適pHは弱酸性(4.5~5.5)である。

●合成ケイ酸アルミニウム：制酸剤

胃酸を徐々に中和してケイ酸と塩化アルミニウムを生じ、生成したケイ酸は胃粘膜を被覆防護して胃の潰瘍部又は炎症部に及ぼす胃液の刺激をさえぎる。一方、塩化アルミニウムは胃壁に取れん的に作用して、その働きを調節する。

●炭酸水素ナトリウム：制酸剤

速効性の制酸作用を示す。

●沈降炭酸カルシウム：制酸剤

不溶性カルシウム剤の1種で制酸作用を呈し、また吸着作用もあらわす。

●ケイヒ末：芳香健胃生薬

●ウイキョウ末：芳香健胃生薬

●ショウキョウ末：芳香辛味健胃生薬

●センブリ末：苦味健胃生薬

●サンショウ末：芳香辛味健胃生薬

2 薬理作用²⁾

(1) 胃排出能に対する作用

マウスを用い、食餌摂取後の胃重量を測定することによりリーダイMM配合散の胃排出能に対する作用を検討したところ、リーダイMM配合散投与群(6g/kg, p.o.)ではコントロール群に比較し、有意な胃重量の減少が認められ、リーダイMM配合散による胃排出能亢進作用が認められた。

(2) 胃液量に対する作用

ラットを用い、リーダイMM配合散の胃液量に対する作用を検討したところ、リーダイMM配合散投与群(3g/kg, p.o.)ではコントロール群に比較し、有意な胃液量の増加が認められた。

(3) 制酸作用

ラットを用い、リーダイMM配合散の胃液pHに対する作用を検討したところ、リーダイMM配合散投与群(3g/kg, p.o.)ではコントロール群に比較し、有意な胃液pHの上昇が認められた。

【取扱い上の注意】

1 本品は生薬を配合しているため、製品により多少の色調幅がありますが、成分等に影響ありません。

2 安定性試験結果の概要³⁾

加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヵ月)の結果、リーダイMM配合散は通常の市場流通下において安定であることが推測された。

※【包装】

リーダイMM配合散

分包：1.5g×240包

バラ包装：5kg

【主要文献】

※1) 第十六改正日本薬局方解説書

2) テバ製薬㈱社内資料(薬効薬理試験)

3) テバ製薬㈱社内資料(安定性試験)

※※【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】

主要文献欄に記載の文献・社内資料は下記にご請求下さい。

テバ製薬株式会社 DIセンター

〒453-0801 名古屋市中村区太閤一丁目24番11号

TEL 0120-923-093 FAX 052-459-2853

受付時間 9:00~17:00(土・日・祝日を除く)

※※製造販売元

テバ製薬株式会社

名古屋市中村区太閤一丁目24番11号